

泉区泉西二地区民生委員児童委員協議会

(平成 26 年 9 月 19 日掲載)

泉西二地区は、仙台駅から車で 30 分強、地下鉄泉中央駅から車で 15 分程の泉ヶ岳に向かう道沿いに、古くから泉区西部地区の中心として栄えた町「根白石地域」、昭和 50 年代頃から里山を造成してできた団地「住吉台地域」と「館地域」の 3 つの地域で、約 8,000 世帯 23,000 人が暮らしています。

民生委員・児童委員は 24 名（主任児童委員 2 名を含む）が活動しています。

東日本大震災での被害は、3 つの地域とも甚大な家屋の倒壊や崖崩れもなく、他地区と比べて幸いにも限定的でした。電気・水道・ガスのライフラインも 10 日間程で復旧しました。

単位町内会の集会所を避難所として開設し、安否確認、情報の収集、飲料水とトイレ用水の確保、さらに支援物資の配給等の活動の拠点としました。飲料水の確保は、新潟・福岡・四国の各地から派遣された給水車や根白石地域の家庭から井戸水をいただき、トイレ用水は川の水を汲み上げての配水作業、高齢者で体調不調の方がたはグループホームでの一時的に入居をお願いしました。連合町内会役員や町内会長が一日 2 回会合し、安否確認や情報の収集に努めました。

津波などで被災された方がたが、当地区に一時的に避難され住まわれていましたが、現在では数世帯となっています。

「住吉台地域」での避難所の閉鎖時には、中学生・高校生約 200 人による一斉清掃が行なわれ、それは見事なものでした。

民生委員・児童委員の多くは町内会の役員も兼ねており、町内会長と連携して積極的に活動を行ないました。

宮城県は、昭和 22 年カスリン台風や昭和 23 年アイオン台風による大水害、昭和 53 年の宮城県沖地震・平成 23 年の東日本大震災（千年に一度の大津波）などおおよそ 30 年に一度の大災害に見舞われています。

私たちの心構えとして、大災害は必ず来ることを忘れないこと、そしてその日のために日頃から訓練の積み重ねが大切だと痛感しています。どうかこの事実を「忘れないください」。「忘れない」ことが大災害への大事な備えなのです。

当泉西二地区民生委員児童委員協議会は、地区社会福祉協議会と連携して「要援護者支援体制」の構築に努めていくこととしています。

最後に、全国の皆様そして民生委員・児童委員の皆様から温かいご援助を賜りましたこと、心から感謝申し上げます。

被災者の皆様には、一日も早いご回復をご祈念申し上げます。